

特集・猛暑
酪農・畜産

乳用牛16頭死亡・廃用に
暑さで繁殖にも影響



うだるような暑さの中、水を浴びて体を冷やす牛(昨年8月、帯広市内の牧場で)

酪農・畜産分野でも記録的な暑さによる被害は大きかった。十勝家畜保健衛生所(帯広)によると、獣医師や生産者からの情報をまとめた管内の2023年(6～9月)暑熱被害は、乳用牛36頭、肉用牛6頭、馬1頭で発生。そのうち、日射病・熱射病などから回復できなかった乳用牛16頭が死亡・廃用に。また、採卵鶏1322羽、肉用鶏1219羽も被害があり、同数が死亡・廃用となった。

4頭、綿羊40頭、採卵鶏1080頭で、23年の猛暑の影響が浮き彫りとなった。
同所の繁殖家輝子所長は「乳牛や肉牛は暑さによって食欲が低下し、分べんが重なっている場合はさらにストレスが高くなる。繁殖成績にも影響が出た」としている。
牛は気温が30度以上の場合、直腸温度が39度以上となり、生乳生産性や健康維持に影響を及ぼすとされている。道農政部は、暑熱対策として、牛舎内の戸や窓を開放し、扇風機で強制換気

を行う▼送風機やダクトは熱発生量の多い頸部(けいぶ)・胴体部に毎秒1～1.5メートル程度の風を直接当てる▼フリーストール牛舎やフリーバーン牛舎は密閉性を避ける――などを挙げている。
また、道総研の酪農試験場と北方建築総合研究所は、機械換気を導入する牛舎に向けて、適切な設備設計の指針となる「設計シート」を開発した。JAや農業改良普及センター、建築設計会社などに開放する考えで、希望者には酪農試験場に申し込みした後、4月以降に配布する予定だ。

◆十勝管内の家畜暑熱被害

	2023年	2022年
乳用牛	36(16)	4
肉用牛	6	—
豚	—	—
馬	1	—
綿羊	—	40
採卵鶏	1322(1322)	1080(1080)
肉用鶏	1219(1219)	—

()内は死亡・廃用。
単位頭または匹



2024年 春作業のスタートダッシュは 最新モデルの Trimble GFX シリーズと共に！



Trimble GFX-1260



Trimble GFX-1060



株式会社ニコン・トリンブル
東京都大田区南蒲田 2-16-2
<https://www.nikon-trimble.co.jp/>